

令和5年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立大森第六中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・主体的な学びに結びつける実験・観察を大切にし、実物や視聴覚教材などを用いて、理科学的な経験不足を補いつつ、関心・意欲・態度を高められるような授業を実施した。
- ・授業の中で、知識の確認と定着を図れるように、小プリントによる重要事項の確認を取り入れた。生徒同時の協働作業を通して、授業の中で知識や技能を確実に定着させることが、思考力や判断力、表現力の向上につながったと考える。

(2) 課題

- ・今後とも実験・観察を大切にし、理科学的な経験不足を補いつつ、主体的に学習に取り組む態度を高められるような授業を実施していく。小中一貫教育における研修会でも協議し、小学校から中学校へのスムーズな連携を図っていく。
- ・実験や観察の結果を考察する力を養っていくような授業を工夫する。正しい結果や知識に頼りすぎている生徒が多く、実験や観察の結果から自ら課題を見つけ、解決できるような力を養う。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	基礎・活用ともに目標値を上回っている問が多い。基礎で7問、活用で3問、目標値を下回っている。	/	/
第2学年	基礎・活用ともに目標値を上回っている問が多い。基礎で7問、活用で2問、目標値を下回っている。	基礎・活用ともに目標値を上回っている問が多い。基礎で3問、活用で2問、目標値を下回っている。	/
第3学年	基礎・活用ともに目標値を上回っている問が多い。基礎で8問、活用で1問、目標値を下回っている。	基礎・活用ともに目標値を上回っている問が多い。基礎で6問、目標値を下回っている。	基礎・活用ともに目標値を上回っていた。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「植物のつくりとはたらき」 「動物のからだのつくりとはたらき」 「水溶液の性質」 「大地のつくりとはたらき」 で下回っている問がある。	「動物のからだのつくりとはたらき」 「生物とかんきょう」 で下回っている。	「電気の利用」で下回っている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値より、上回っている問が多い。「植物の分類」「力の性質」「火山」で下回っている問がある。	目標値より、上回っている。「物質の状態変化」「力の性質」で下回っている。	目標値より、上回っている。「植物の分類」「物質の状態変化」「音の性質」で下回っている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「物質の成り立ち」「生物と細胞」「化学変化と物質の質量」「気象」で下回っている。	「化学変化と物質の質量」「植物のからだとつくりの働き」で下回っている。	「化学変化と物質の質量」「植物のからだとつくりの働き」で下回っている

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「植物のつくりとはたらき」「動物のからだのつくりとはたらき」「大地のつくりとはたらき」の正答率が低い。基礎・基本に関しては繰り返し学習し、定着をはかる。	「生物とかんきょう」の正答率がやや低く、論理的な思考力を必要とする課題を解決するような機会を増やす。	小中一貫教育における研修会をベースに、スムーズに小学校の既習事項から中学校への理科につなげる工夫を続けていく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「力の性質」のグラフの正答率が低い。グラフをくり返し書かせて、定着をはかる。基礎・基本に関しては繰り返し学習し、定着をはかる。	「光の性質」「地震」が目標値は上回っているものの、正答率が低い。授業の実験の中で、深く「考える」ことのできる場面を大切にし、その時間を確保していく。	興味のきっかけとなるように、実験・観察をできるだけ多く取り入れ、今後も主体的に学習に取り組む態度の向上を図る。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「化学変化と物質の質量」のグラフの正答率が低い。様々なグラフをくり返し書かせて、定着をはかる。基礎・基本に関しては繰り返し学習し、定着をはかる。	「気象と観測」の内容が目標値とほぼ同じである。特に「圧力」と「風」では、深く考えることのできる場面を大切にし、その時間をかくほしていく。	興味のきっかけとなる話題や観察・実験を多く取り入れる。難易度の高い課題を設置し、仲間と協同して解決していく能力を高める。基礎基本の小テストを実施し、自信につなげる。